

全盛期の葛飾北斎に一番近いといえる肖像画！  
区指定文化財の妙法寺板絵（レプリカ）

いた え ちやくしよくろうおう きずい ず ほっけい  
「板絵着色老翁奇瑞の図（北溪筆）」を公開しました

区では、平成7年に区指定文化財に指定した妙法寺板絵のレプリカを作製しました。この板絵は、葛飾北斎の高弟である魚屋北溪（ととやほっけい）の文政4年（1821）の作で、生前の北斎を知る者が描いた肖像画が含まれている極めて貴重な資料です。資料を所蔵している妙法寺では一般公開していないため、これまでなかなか目にすることができなかった資料でしたが、今回板絵のレプリカを作製し、杉並区立郷土博物館で公開しました。

この板絵は、「髭題目」（ひげだいもく）※と初老の男性を囲むような構図になっています。この筆を口にした初老の男性が、北斎の肖像と言われています。

北斎の肖像については、まゆの垂れ下がった丸顔とする説と、面長で厳しい顔つきとする説がありますが、高弟である北溪が描いたこと、北斎本人と面識のあった溪斎英泉（けいさいえいせん）や歌川国芳などの浮世絵師によって描かれた北斎の肖像とも通じていることなどから、この板絵は従来の「面長」説を補強するものであり、頭髮の様子からも当時62歳であった北斎の肖像にふさわしいと考えられます。

各地に残る北斎の肖像画と比べてもその特徴を良く捉えていると考えられることから、この板絵が発見された1994年には新聞に大きく取り上げられたり、近年では大英博物館も調査に訪れたり、注目されてきました。

全盛期の北斎に一番近いともいえる貴重な肖像画入りの板絵を博物館でぜひご覧ください。

※勢いよく髭のように四方にはねのばして書いた「南無妙法蓮華経」のこと



妙法寺所蔵の奉納絵馬  
「板絵着色老翁奇瑞の図」  
（横196.0cm、縦120.0cm）  
絵師 魚屋北溪による  
文政4（1821）年の作



▲北斎の肖像画部分  
（拡大図）

【問い合わせ先】

教育委員会事務局生涯学習推進課：03-3312-2111 内線1667  
杉並区立郷土博物館【本館】：03-3317-0841  
総務部広報課：03-3312-2111 内線1502